

2024年2月28日

森永乳業の育児ニュース『エンゼル 110 番レポート 92 号』

「子育て支援で求めるもの」

森永乳業は、育児における実態や意見などをまとめたレポートを、1993年4月より「エンゼル 110 番レポート」として発行しています。この「エンゼル 110 番レポート」は、育児相談窓口「エンゼル 110 番」にご相談いただいた方を対象に聞き取り調査を行い、その内容を傾向としてまとめたものです。

エンゼル 110 番は 1975 年 5 月に開設され、2023 年 5 月で 48 周年を迎えました。今までにお受けした相談件数は 10 1 万件以上(2023 年 12 月現在)にのびります。相談者は主にママですが、パパやおじいちゃん、おばあちゃんにも広くご利用いただいています。

今回の調査では、2023 年 6 月に子育ての経済的支援や共働き・子育ての推進などをこども・子育て政策とした「異次元の少子化対策」が掲げられましたが、実際に子育てをしている世帯ではどのような支援を求めているのかに関し、「支援はもっと充実してほしいか?」「子ども向け・保護者向けに分けて公的・民間に限らず支援やサービスで求めるものはあるか?」という内容で聞き取り調査を行いました。子育て中の方にとっては気になるワードであったようで、たくさんのご意見が寄せられました。

【主な統計結果】

- 子ども向けに求めるものとしては、公園や児童館などの遊ぶ場所の充実を求める声が多い。
- 保護者向けのサービスとして求めるものは、「気軽に子どもを預けられること」が最も多く、また相談先を求める声も多い。

◇エンゼル 110 番 電話相談運営概要◇

相談対象 妊娠中～小学校就学前まで
相談員数 16 名(管理栄養士、心理相談員など)
ウェブサイト <http://www.angel110.jp/>

本件・バックナンバーに関するお問い合わせ先

<お客さまからのお問い合わせ先>

育児に関する無料電話相談「エンゼル 110 番」フリーダイヤル 0800-5555-110

※受付時間:月～金曜日(土日、祝日、年末年始を除く)、10～14 時

エンゼル 110 番ウェブサイト <http://www.angel110.jp/>

今回のテーマ「子育て支援で求めるもの」

Q1.子育て支援はもっと充実してほしいですか？

充実を求める人は 101 人中 93 人。9 割以上の方がもっと充実してほしいと望んでいる

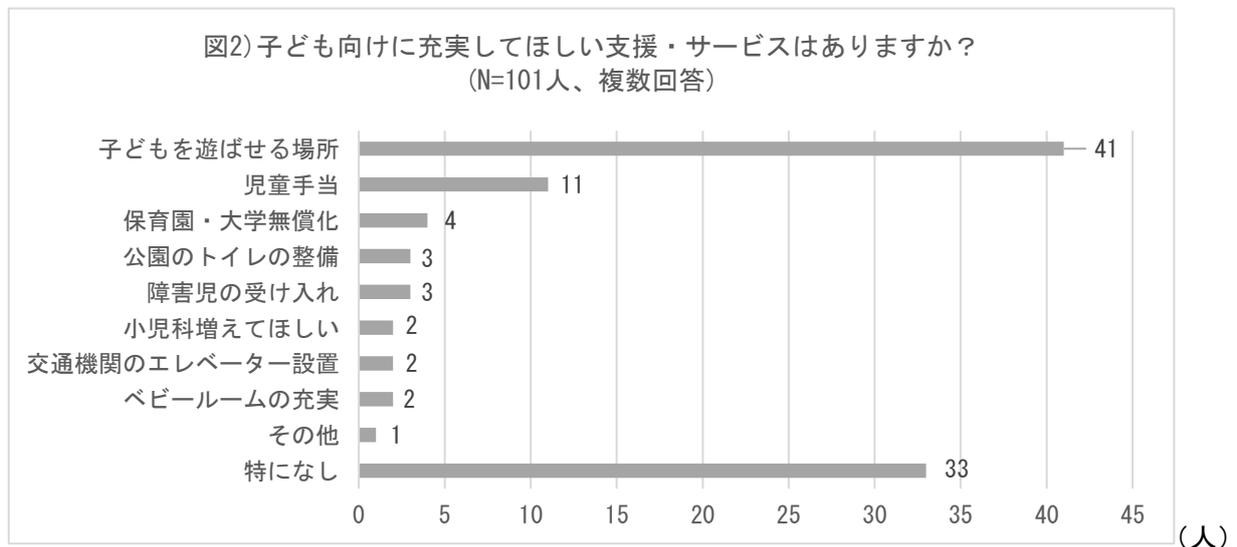
子育て支援をもっと充実してほしいか尋ねたところ、101 人中 93 人が「はい」と答えました。中には、「今住んでいる地域は充実している」「意外と支援サービスが多かった」というお声もありました。(図1)



Q2.子ども向けに公的・民間に限らず子育て支援・サービスで求めるものはありますか？

子ども向けの支援・サービスでは、遊ばせる場所の充実を求める声がトップ

最も多かった内容として、子どもの遊び場所が求められていました。内訳としては「公園や児童館」を求めのお声が多く、続いて、「全天候・全季節型の遊び場」、「寝んねの赤ちゃんや3歳未満の幼児向けの施設」と続きました。お声の中には、「公園が荒れているので整備してほしい・遊具を増やして欲しい」「近くにないので数が増えたら、と思う」「雪国なので冬でも遊べる所」「支援センターは土日でも開いていると助かる」「支援センターの中に赤ちゃん向けのコーナーはあるが、大きな子が入ってくるので安心して利用できない」といったものもあり、子どもを安全にのびのびと遊ばせたい、という願いが読み取れました。あわせて、公園のトイレについては、「キレイに明るくしてほしい」「おむつ替えの台を男女ともに設置してほしい」「おむつ替えのとき寒い思いをさせてしまう」など、小さな子どもを連れているからこそ感じるであろうご意見もある反面、子育て支援の拡充を望むものの、実際のお子さまの月齢が低い保護者からは、まだ具体的にはイメージできていないというお声もありました。



〈ホットボイス〉

- ・歩けない赤ちゃんだけが遊べる施設がもっと増えて欲しい(3 カ月)
- ・どこに住んでいても使える児童館があればよい(11 カ月)
- ・児童館や公園が遠くて行けない。数を増やして欲しい(1 歳 9 カ月)
- ・屋外の遊具やスペースで 3 歳以下対象の所を作って欲しい(2 歳)
- ・保育園に通っている子がお休みの日に行けるサービスやイベントがあるとよい(2 歳 2 カ月)
- ・大学も費用が免除になって子どもが行きたいところを選べるとよい(6 歳)
- ・子どもが障害をもっているので保育園を断られた。障害があっても入りやすくして欲しい(3 歳 5 カ月)
- ・公園のトイレが暗くて汚い。トイレトレーニング中で連れていくのに嫌がる(3 歳 4 カ月、9 カ月)
- ・市の補助でやっている近くの児童館は有料。無料で使いやすくして欲しい(9 カ月)
- ・支援センターによって支援の内容が違う。保育士がいて遊び方を教えてくれたり、他のママとの交流も手助けしてくれる所もあるので支援内容を統一して欲しい(9 カ月)
- ・駅のエレベータを使うには遠回りしなければならない。出かけるのが億劫になる(6 カ月)
- ・夏祭りや餅つきなどの季節のイベントを開催する場所が増えると嬉しい(5 歳)
- ・兄弟でどちらかに障害があると発達の状態ではなく、年齢条件で区切られてしまうので集いなどに参加ができない(1 歳 7 カ月、6 カ月)
- ・児童手当は所得制限しないでほしい。少しでももらえると助けになるし、うれしい(4 歳、4 カ月)

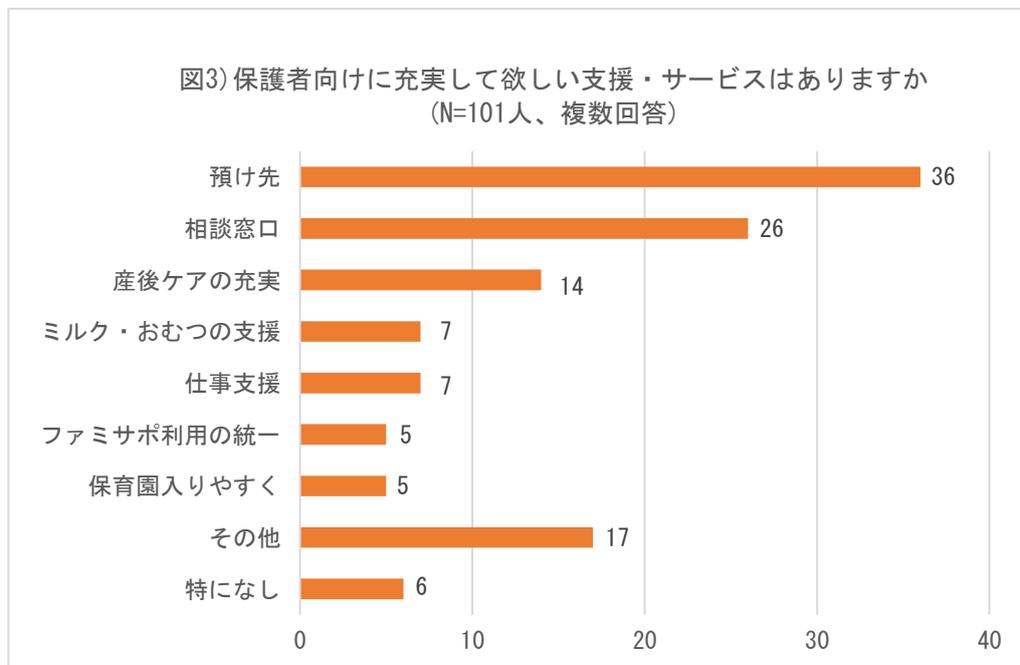
Q3.保護者向けに公的・民間に限らずに子育て支援・サービスで求めるものはありますか？

保護者向けの支援・サービスでは、気軽な預け先を求める声はトップ

最も多いお声として、「預けたい」タイミングでの受け入れがありました。これにはベビーシッターや訪問型も含まれており、「預けるまでに手続きが煩雑」「時間が決まっている」「預け先が少ない」「すぐ埋まってしまう」などのお声から利用しづらい状況がうかがえ、予約がなくても気軽に使えたら、という願いが読み取れました。次いで土日も含む相談窓口が上がっており、育児には休みがなく気軽に息抜きを兼ねて話を聞いてもらえる場所を求めている様子がうかがえました。産後ケア※1に関しては「1 歳まで使えたら」「上の子と一緒に」「1 週間使ったがもっと使いたかった」というご意見がありました。ミルク・おむつの支援については、実施されている地域もあり、ファミリーサポート(ファミサポ)※2の利用と同様、地域によって差がある現状が浮かび上がりました。その他には、「子どもの緊急時の対応を含む具体的な子育て講座」「食べない子どもを含めた離乳食・幼児食講座」、「必須のパパ向け育児学級の開催」「夜間手伝ってくれるサービス」「支援センターや図書館で親へのフォローやソフトな見守り」などもありました。現在子育ての真ただただ中で困った経験があったからこそ、様々なご意見が寄せられたものと思われまます。

※1産後ケア:自治体の産後ケアセンターや助産院、病院、民間の産後ケア施設などで行われている。産後のママの心理的ケアや身体的ケア、育児支援、育児についての相談や指導、生活の相談や支援など、さまざまなサポートを受けることができる。地域によって、宿泊型や訪問型、デイサービス型等があり、利用回数や時間が決められている。

※2ファミサポ:ファミリー・サポート・センター事業は、乳幼児や小学生等の児童を有する子育て中の労働者や主婦等を会員として、児童の預かりの援助を受けたい者と当該援助を行いたい者との相互援助活動に関する連絡、調整等を行う事業。(厚生労働省 子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)の概要 より)



(人)

〈ホットボイス〉

- ・日頃の軽い悩みや、ちょっとしたことを話せる場所がもっとあればと思う(5歳6カ月)
- ・子育て中はお金がかかる。子育て世帯を減税してほしい(3歳)
- ・地域などの子どもに関する相談は同じ人にずっと担当してもらいたい(3歳7カ月)
- ・子どもがいても働きやすい職場の充実(5歳、4歳)
- ・一時保育はあるが、使えるようになるまでが面倒。リフレッシュできないと感じた(4歳、3カ月)
- ・保育園の充実、年度の途中でも預け先がすぐに見つかる環境を望む(4歳6カ月)
- ・シングルなので夜間や自身の病気のときの預け先(4歳)
- ・子どもを連れて買い物は大変なので移動販売があるといい。コンビニもドライブスルーになると便利(7カ月)
- ・産後ケア(訪問ヘルパー)を使いやすくしてほしい(8カ月)
- ・訪問型のサービスがもっとたくさんあり、簡単に使えたらよい(3歳5カ月)
- ・子どもを預けてひとりになれる施設。お茶したり本を読んだりエステがあればよい(3歳4カ月、9カ月)
- ・おむつ券、タクシーチケットがもらえる自治体があると聞き、うらやましく思う(9カ月)
- ・発達に悩みのあるママたちが集まる会を作ってほしい。専門家がいるとなおよい(5歳6カ月、2歳10カ月)
- ・住んでいる地域には産後ケアの施設がないので今後に期待する(1歳2カ月)
- ・子どもを預けるのに今は事前登録や調整が必要。突発的な用事に対応してくれたらと思う(4歳、4カ月)
- ・相談窓口がもっとわかりやすかったらよいのと思う。メディアにも周知させてほしい(8カ月)
- ・夜子どもと離れたたい。ショートステイのようなものがあるとよい(4歳9カ月)

【まとめ】

エンゼル110番では、14年前の2010年に子ども手当が支給されたことから、「子育て支援で、本当にしてほしいことは？」という内容で聞き取り調査を行っています。その当時においても、お金以外の支援案として「保育園を整備し、待機児童を解消する」といった内容が多く挙げられており、ホットボイスからは「お金はありがたいが、減額をしても保育園を作ってほしい」「上の子も一緒に入院できるような産後ケア施設を作ってほしい」「町ごとに育児の専門家がいて相談にのってくれたり、すぐ自宅に来てくれたりするシステムがあるとよい」と今に通じるご意見がありました。

電話相談を通じて地域によって支援の差があることをお聞きしますが、アンケートからも同様のことが見て取れました。待機児童はここ数年で改善が進んでいるようですが、今の子育てにおいては預け先や公園・児童館をもっと整備することが

望まれています。実際の子育て世代が求めているのは「子どもをのびのびと安全な環境で遊ばせたい」「何かあったときにすぐに子どもを預けたい」「気軽に相談したい」ということでした。当事者の声として今後の支援に活かされ、子育てしやすい環境になることを願っています。エンゼル 110 番では「気軽に相談したい」とのお声に応えられるように、日々相談者からのお声に耳を傾けて参ります。

調査の概要

- 対象 : 「エンゼル 110 番」に電話をいただいたママ 101 人
- 調査方法 : 電話による聞き取り調査
- 調査期間 : 2023 年 8 月 31 日～12 月 11 日
- 対象者の属性 : 母親の年齢 20 代…15 人、30 代…67 人、40 代…16 人、50 代…0 人、不明…3 人
 子どもの年齢 6 カ月未満…23 人、1 歳未満…31 人、1～2 歳…30 人、3 歳以上…44 人
 不明…0 人(兄弟あり)

エンゼル 110 番レポートのバックナンバー

1993 年 4 月	第 1 号『離乳食』
1993 年 7 月	第 2 号『初めての泊りがけ旅行』
1993 年 10 月	第 3 号『胎教』
1994 年 1 月	第 4 号『お年玉』
1994 年 5 月	第 5 号『夫の育児参加と妻の満足度』
1994 年 8 月	第 6 号『妊娠中の食事について』
1994 年 11 月	第 7 号『育児雑誌を読みますか』
1995 年 2 月	第 8 号『早期教育は必要ですか』
1995 年 5 月	第 9 号『赤ちゃんのアレルギー、気になりますか』
1995 年 8 月	第 10 号『どんな出産をしましたか』
1995 年 10 月	開設 20 周年記念冊子『60 万件の電話相談から』
1996 年 11 月	第 11 号『子育て費用をどう考えますか』
1996 年 2 月	第 12 号『子どものことを夫婦で話し合っていますか』
1996 年 10 月	第 13 号『赤ちゃんをだっこした経験ありましたか』
1996 年 12 月	第 14 号『理想の父親像と母親像』
1997 年 4 月	第 15 号『子育て中のお母さんの自由時間』
1997 年 6 月	第 16 号『子どもを預けたことはありますか』
1997 年 9 月	第 17 号『子育て中のストレス解消法』
1997 年 12 月	第 18 号『かかりつけのお医者選び』
1998 年 4 月	第 19 号『“格好いいお母さん” が当たり前？』
1998 年 6 月	第 20 号『35 歳からの子育て』

1998年9月	第21号『これからはママもパソコン使います』
1998年12月	第22号『35歳からの子育て パートⅡ』
1999年3月	第23号『実家とどうつきあっていますか』
1999年6月	第24号『子どものアレルギーについて』
1999年9月	第25号『子ども連れのお母さんが見た街作り』
1999年12月	第26号『子育てが楽しいと感じる時』
2000年3月	第27号『離乳食は得意ですか』
2000年6月	第28号『子育て仲間はどこで見つけましたか?』
2000年9月	第29号『子連れで海外旅行に行きましたか?』
2000年10月	開設25周年記念冊子『医療関係者向アドバイスブック』
2000年12月	第30号『私たちのミレニアム・ベビー』
2001年3月	第31号『ママたちのIT革命』
2001年6月	第32号『子どもが生まれて夫婦関係が変わりましたか?』
2001年9月	第33号『妊娠してからの食生活の変化』
2001年12月	第34号『絵本の読み聞かせをしていますか』
2002年3月	第35号『育児日記をつけていますか』
2002年6月	第36号『ママたちの再就職事情』
2002年9月	第37号『テレビやビデオをどのように見せていますか』
2003年1月	第38号『夫の育児参加と妻の満足度(その2)』
2003年4月	第39号『子育てにインターネットを活用していますか?』
2003年7月	第40号『子育てコストとママの生活満足度』
2003年12月	第41号『ママたちの育児スタート 産後に望む支援サービス』
2004年4月	第42号『子育てママの喫煙・禁煙』
2004年9月	第43号『信頼できる育児の情報源とママたちの満足度』
2004年11月	第44号『ママたちの産院選びと立ち合い出産の実態』
2005年3月	第45号『妻の実家・夫の実家、どう付き合っていますか?』
2005年7月	第46号『赤ちゃんのアレルギー・気になりますか?』
2005年11月	第47号『赤ちゃんをだっこした経験ありましたか?』
2006年4月	第48号『子育てママの携帯電話活用法』
2006年7月	第49号『子ども連れで初めての泊りがけ旅行』
2006年11月	第50号『子どもは何人ほしい?』
2007年2月	第51号『子どもに習い事をさせますか?』
2007年8月	第52号『「3歳児神話」をしていますか?』
2008年1月	第53号『子どもを預けたことがありますか?(その2)』
2008年4月	第54号『「お母さんになったな」と初めて感じたのは?』

2008年9月	第55号『結婚前の料理経験はどれくらいですか？』
2009年1月	第56号『ここが困った！子連れ外出事情』
2009年5月	第57号『不況に負けない！ママの明るい節約術』
2009年9月	第58号『孫育て』
2009年11月	第59号『ママ友とのおつきあい、どうしていますか？』
2010年5月	第60号『夕食の献立どうやって考えていますか？』
2010年8月	第61号『子育て支援で、本当にしてほしいことは？』
2010年11月	第62号『パパはイクメンですか？』
2011年2月	第63号『35年で変わったこと、変わらなかったこと』
2011年5月	第64号『育児日記をつけていますか？』
2011年9月	第65号『ママたちの節電対策』
2012年1月	第66号『今、大切にしたいもの』
2012年6月	第67号『育児で心配になったきっかけとその解決方法』
2012年11月	第68号『子育てママのお正月』
2013年3月	第69号『名づけ』
2014年4月	第70号『赤ちゃんを抱っこしたことはありましたか？』
2014年12月	第71号『母乳への意識』
2015年4月	第72号『現代のママ事情』
2015年7月	第73号『「食べない子」「食べすぎる子」のママの悩み』
2015年9月	第74号『子育てしやすい街の条件』
2015年11月	第75号『働くママの気持ちと職場の理解』
2016年6月	第76号『ママたちが活用しているアプリは？』
2017年1月	第77号『結婚前の料理経験はどのくらいですか？』
2017年7月	第78号『なぜ、今「電話相談」なのか』
2017年11月	第79号『ママたちのストレスとその解消法』
2018年3月	第80号『2017年 年間統計』
2018年8月	第81号『ママたちの育児スタートは？』
2019年2月	第82号『2018年 年間統計』
2019年10月	第83号『ここが困った！子連れ外出事情』
2020年3月	第84号『2019年 年間統計』
2020年7月	第85号『コロナ禍で寄せられたママたちの不安と悩み』
2020年10月	第86号『離乳食一昔と今 ~変わったこと・変わらなかったこと~』
2021年3月	第87号『2020年 年間統計』
2021年11月	第88号『おうち時間の過ごし方』
2022年2月	第89号『2021年 年間統計』

2023年3月	第90号『2022年 年間統計』
2023年10月	第91号『アフターコロナの子育てや生活について』